

Main content table with 19 columns representing different TV channels and their respective program schedules. Columns include channel numbers (e.g., 04:30, 00, 05:15) and program titles (e.g., おはよう日本, めぐりにゆ〜, ニュース).

大和リビング×米子園 テレビをみる日第二回

テレビをみる日

- ▶大和川レコード × 米子匡司が2009年6月5日(金)に放送されるテレビ番組を、放送開始～終了まで観賞します。
- ▶その様子を、リアルタイムにインターネット上の特設サイトに動画配信します。
- ▶何人かのゲストをお迎えして、テレビ番組について、またテレビを中心とした物事について、話します。

参加するには

このイベントに参加するには、以下の2つの方法があります。
6月5日(金) 午前5時～翌午前5時までの間に、

- http://tv.chochopin.net/ にアクセスしてインターネット放送を見る。
サイトにコメントを書き込む事もできます。
書き込んだコメントは、会場の電光掲示板に表示されます。
- FLOAT(大阪市西区安治川・右下図参照)へ行く。
ご希望の方は当日でもゲストとして参加していただけます。

ゲスト

市川ヨウヘイ (古本屋メガネヤ)

部屋が古本屋の「メガネヤ」を京阪京橋で経営中。現在お客を募集中。

岩淵拓郎 (美術家 / 執筆・編集者 / 208)

美術家 / 執筆・編集者。関西を中心に言葉とその意味をモチーフとした作品を発表。同時に雑誌・新聞などでの執筆と編集に関する業務を行う。またウェブやメールマガジン、ポッドキャスト、ミニFMなどパーソナルメディアによる情報発信の実験と実践を継続的に行っている。

小田寛一郎

1980年佐賀県生まれ。神戸市在住。音の出るもの、出ないもの、その他なんでも使う。誰もが理解できるようなわかりきった行為からでも、誰もがそれぞれにいろんなことを感じ考えているはずだと信じて、そのつど思いつく限りの様々なかたちで、人・空間・時間、その他いろいろへのはたらきかけをおこなっている。趣味はかんがえごとと読書。

小島剛 (音楽家 / 大阪アーツアポリアダイレクター)

95年ごろよりコンピュータを使った音楽活動を開始。現在まで、国内外の様々なフェスティバルやイベントでライブ活動をおこなっている。01年からNPO法人大阪アーツアポリアに所属。サウンドアートプログラムディレクター。築港赤レンガ倉庫を使って、他メディアの対戦型サウンドパフォーマンス企画である近未来系築港赤レンガ倉庫シリーズ(2001-2005)などを企画。

横山千秋

1983年福島県出身。岡山市在住。アート活動を媒介に形成される人間関係やコミュニティに着目し、演奏、農業、釣り、共同生活など、様々な手法での実践を試みる。現在番組制作会社勤務。

テレビについて

1953年にNHKが放送を開始。同年、日本テレビが民間放送第一号として放送を開始し、今にいたるまでお金のかからないエンターテインメントとして広く人口に膾炙しました。また、同年シャープが国内最初の黒白テレビを発売して以来、テレビの家庭への普及率は、1975年には90%、1985年に99%を越え、日本での一日のテレビ視聴時間は全年齢平均4~5時間とされています。また、2000年以降、特に20歳代男性を中心としたインターネットを利用する若年層のテレビ離れが進んでいるとの見方もあります。

テレビをみる前に

テレビは「言葉の最果て」なのだと思います。あらゆる物事が曖昧な境界から脱したときに勝ち取る意味は、やがて言葉となって流通し、そして最後は電波に乗って僕たちのお茶の間に到着します。世界はもっと曖昧なものなのかもしれないけども、それが電波にのれば、世界がすべて言葉で語れるようになるのか。ってことはそれを受け取って「世界はこうだ！」を感じとる人が多数いるわけで…。そういう意味では「世界が先か、テレビが先か」…わからなくなってしまうのです。(大和川レコード)

小さいころにはよくテレビを見ていました。

好きな番組には「スタートレック」とか「鶴瓶上岡パペボTV」とか深夜番組が多くて、兄と一緒に夜更かししてはテレビの前に陣取って、毎週必ず見ていました。何がきっかけだったんでしょう。好きで見ていた番組が減っていったのがきっかけだったのでしょうか、その頃テレビは僕の生活の一部としてあったのに、いつの間にか生活の中にテレビは無くなって、今ではテレビそのものが家にありません。今どこかで時折、ふと目にする地上波のテレビ番組は、その頃からずっと変わらない普遍的な世界での出来事のように思えて、すべからく変化し続ける自分や自分を取り巻く物事との間に生じる違和感から、狐につままれたような気分になります。テレビ番組というのは一体なんだったのか、なぜ僕はテレビを見ないのかが気になり、もう一度テレビを見てみようと思います。(米子匡司)

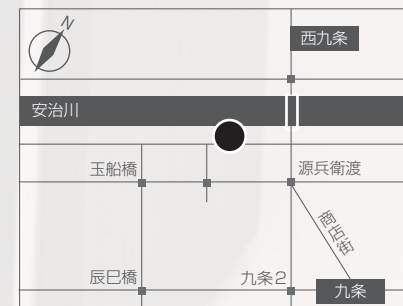
大和川レコード × 米子匡司 テレビをみる日 第二回

2009年6月5日(金) 午前5時～翌午前5時
<http://tv.chochopin.net/>

大和川レコード × 米子匡司

大和川レコード(日常編集家/アーティスト)と米子匡司のコンビ。それぞれに音楽・メディア・その他を扱った活動を行いながら、お互いの興味の重なるところで協力中。2人での主な活動は、『憧れのラジオDJ!』(ワークショップ/CAPHO USE/2007)、『大和川レコード × 米子匡司』(パフォーマンス/Pantaloons/2008)など。また、2006年よりNetRadio / Podcast『スキマ芸術』を放送しています。

視聴会場



FLOAT

<http://float.chochopin.net/>

〒550-0026 大阪市西区安治川1丁目1-28 安治川倉庫